

○ ボランティアと行政の支援を受け、近隣地区組織がオーナーを指導することで景観を保全している。

基本情報

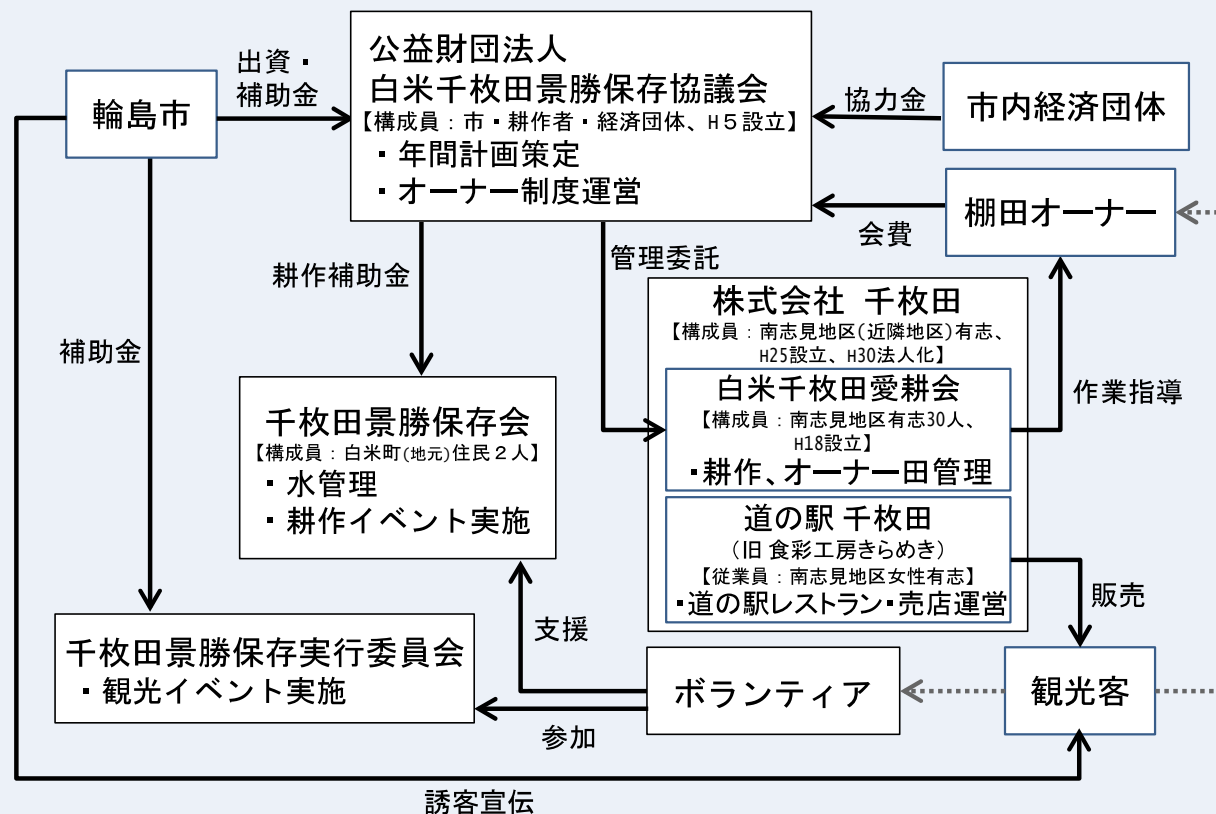
- 所在地：石川県輪島市白米町^{わじまし しroyねまち}(輪島市街から車で15分)
- 枚数：1,004枚(畑を含む)
- 耕作面積：約4ha(田1.8ha+畦2.2ha)
- 耕作率：約98%
- 標高範囲：4m～60m
- 平均勾配：1/4
- 法面の構造：土羽
- 開発起源：16世紀以前
- 水源：野田川
- 保全団体：(公財)白米千枚田景勝保存協議会、千枚田景勝保存会、白米千枚田愛耕会
- 棚田オーナー制：165組(H19～)
- 選定：棚田百選(H11)、国指定文化財名勝(H13)、世界農業遺産(H23)



地区の特徴、取組効果

- 地元農家の高齢化・後継者不足により営農維持が困難となった田の再生活動が、ボランティアや近隣地区(南志見地区)の住民により徐々に拡大。
- オーナー制度や各種イベントを通じて交流人口を増やし、現在は世界農業遺産に認定された能登の里山里海を代表する景観として毎年50万人以上の観光客が棚田に訪れるまでになった。耕作イベントや隣接する道の駅での営業を通じて棚田が地域活性化の拠点となっており、営農活動が景観保全に果たす役割とその重要性を伝えている。

棚田保全をめぐる関係図



【事例】農家の人手不足はボランティアとオーナーでカバーする



○ 都市近郊の地の利を活かし、都市住民を後継者に見据えた「次世代型オーナー制度」を実施している。

基本情報

ちちぶぐん よこぜまち

- 所在地：埼玉県秩父郡横瀬町大字横瀬寺坂
- 枚数：約250枚 (横瀬駅から車で5分)
- 耕作面積：約5.2ha (田4ha)
- 耕作率：約100%
- 標高範囲：230～270m
- 平均勾配：1/10
- 法面の構造：土羽、石積み
- 開発起源：鎌倉時代
- 水源：曾沢川
- 保全団体：寺坂棚田保存会
- 棚田オーナー制：25人 (H20～)



寺坂棚田学校

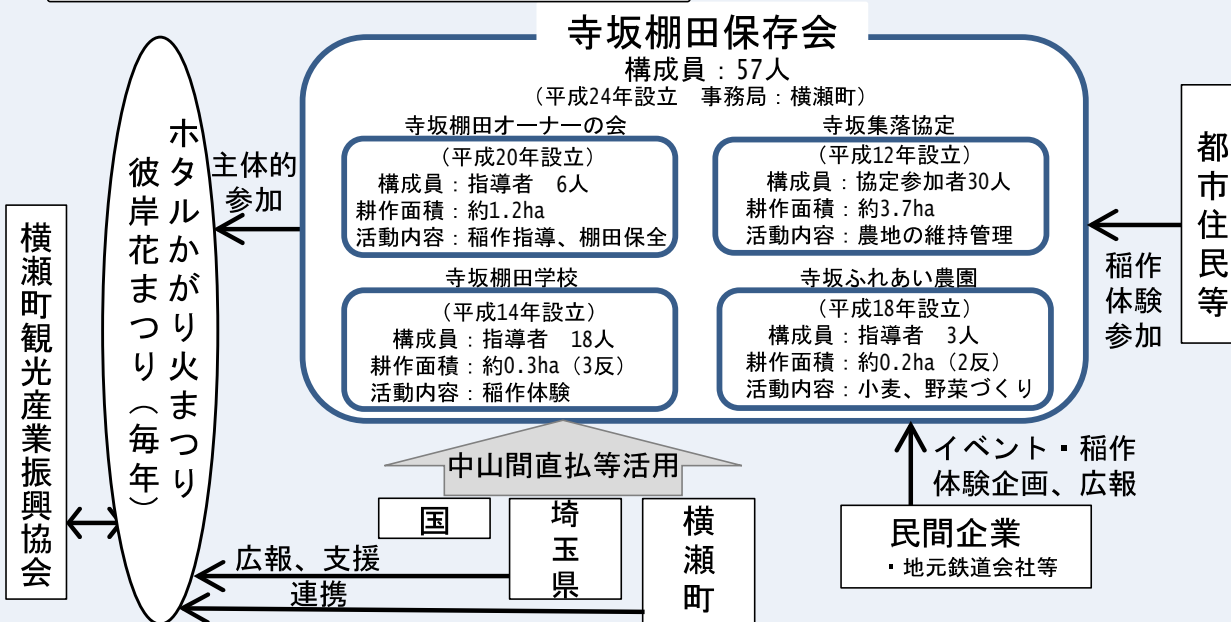


ホタルかがり火まつり

地区の特徴、取組効果

- 寺坂棚田は、都心から電車で1時間半程度の場所に位置する横瀬町にある秩父のシンボル武甲山を正面に望み、埼玉県内最大級の規模を誇る。
- S50頃に50戸いた耕作者はH10頃には4戸にまで減少したが、復田に向けて所有者らが先生となり学校形式で都市住民に稲作を体験してもらう「寺坂棚田学校」をH14に開校したところ人気となり、毎年新入生を迎え安定的に継続しているほか、H20には、米作りを身につけた学校卒業生が独り立ちして各自の専用田で耕作する「オーナーの会」にも発展し、復田は完了した。棚田学校、オーナートラリアルコース、オーナーという3段階でステップアップでき、オーナーは育苗から脱穀や日常の水管理に至るまで全てを行い年30日以上棚田を訪れるため、「次世代型オーナー制度」とも呼ばれている。
- 地域イベントとしてホタルかがり火まつりや彼岸花まつりを開催し、H28には9,000人の来訪者を迎え、棚田で収穫した餅、赤飯、農産物を販売した。

寺坂棚田の保全をめぐる関係図



【事例】都市住民の稲作体験から独り立ちまでサポートする「次世代型オーナー制度」の成功





○ 模範的なオーナー制度と体験学習で都市農村交流を通じた地域活性化のモデル事例となっている。

基本情報

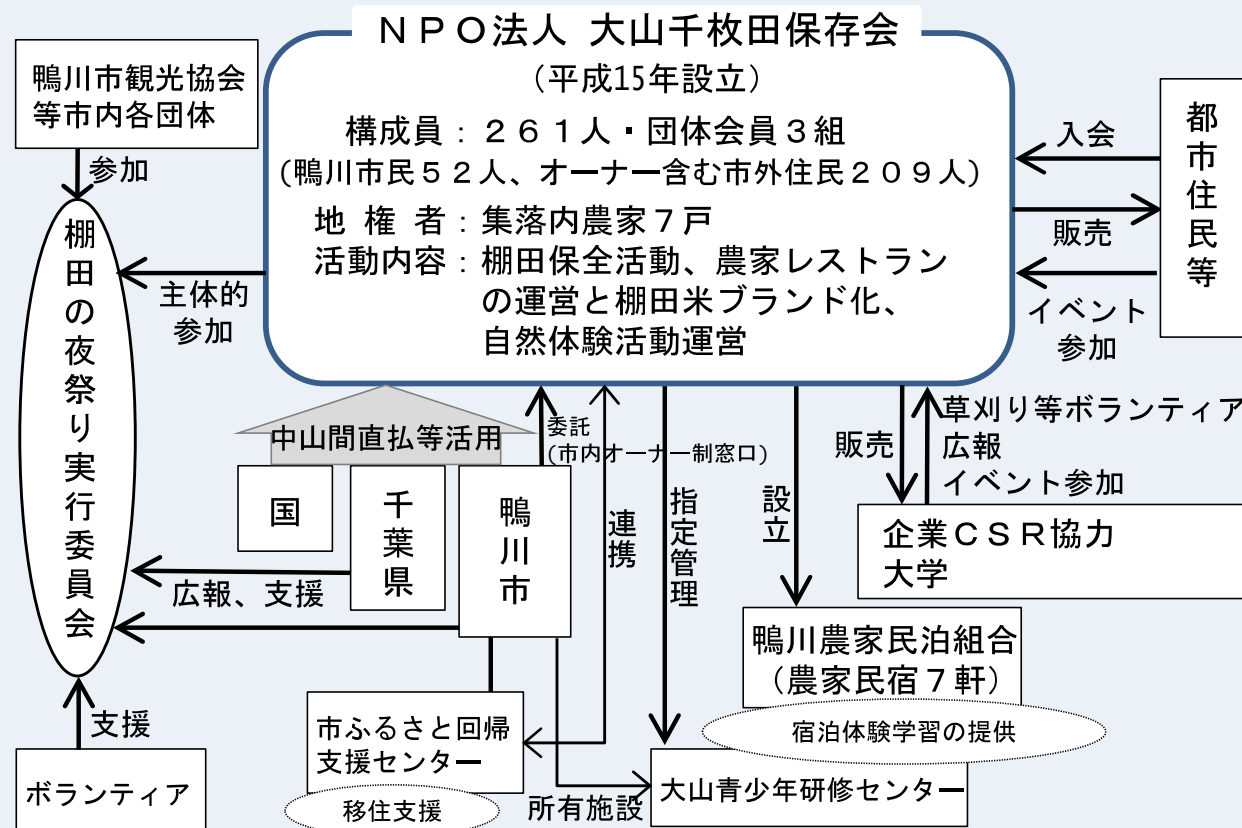
- 所在地：千葉県鴨川市釜沼 かもがわし かまぬま
- 枚数：375枚 (JR安房鴨川駅から車で30分)
- 耕作面積：約32ha (棚田オーナー制2.3ha)
- 耕作率：約99%
- 標高：200m
- 平均勾配：1/5
- 法面の構造：土羽
- 開発起源：江戸時代
- 水源：天水
- 保全団体：NPO法人 大山千枚田保存会
- 棚田オーナー制：154組 (H10～)
- 選定：日本の棚田百選 (H11)、千葉県名勝 (H14)、オーライ！ニッポン (H15)、重要里地里山 (H25)



地区の特徴、取組効果

- 江戸幕府の直轄牧であった嶺岡牧跡につながる棚田は、都心から2時間弱で行ける「東京から一番近い棚田」として知られ、全国でも唯一天水だけで水源を賄っている。来訪者数は年間3万人を超え、鴨川市の重要な観光資源となっている。
- 棚田オーナー制度を中心に、棚田トラスト、大豆畑トラスト、酒づくりオーナー、綿藍トラスト、家づくり体験塾など、農家の知見や地域資源を活用した様々なプログラムを用意。年間5,600人以上の児童・生徒等が体験学習を行っている。

棚田保全をめぐる関係図



キーワード

地域外の連携

オーナー制度 都市農村交流

教育

6次産業化

農泊

企業CSR

【事例】 棚田オーナー制度を中心に地域活性化に取り組む

☆ 地域の課題解決意識と行政との連携がカギ

棚田や文化、自然環境を地域資源と据え、地域住民が地域づくりに対して課題意識を持ち、行政が活動の出発をサポートをすることが大事

きっかけ

H7、地域の衰退に危機感を募らせた住民が、農村の活性化を目指す事業の導入を市に要請し採択

Step1 (H9)

大山千枚田保存会 発足

- 検討を重ね、大山千枚田を核とした地域振興を図ることを決定。
- 都市住民の参加を促し、地権者、地域住民、都市住民の77人で発足。景観整備(復田)を開始。

事務能力に長けた主婦、互に強いエタナー等地域住民の活躍で棚田の知名度が高まる。

Step2 (H10~)

棚田オーナー制

- 先進事例に学びながら検討を開始。
- 通年の農作業体験を試行。地域の意識が変わり始め、H12からオーナー39組で本格導入。H13は112組に。

マスコミ関係者、営業マン等多様な経歴のオーナーが来訪し、多くが保存会にも登録。

中山間地域等直接支払交付金(H12~)

棚田百選(H11)

鴨川で第8回棚田サミット開催(H14)

多くが都市住民の意見で開設。

Step3 (H15~)

体験学習

- 自然観察、里山ウォーキング、郷土料理づくり、わら細工等実施。酒づくりオーナー(H16~)、藍染め(H17~)、家づくり体験塾(H18~)等、取組拡大。

Step4 (H15~)

NPO法人化

- 法人化により指定管理の受託や補助金の取得が可能となり、広範な事業展開に寄与。
- 新たに移住したオーナーが役員を担うほか、後に専任職員も雇用。

荒廃した竹林の整備と再利用を、観光地としての知名度アップと各団体との連携強化につなげる。



市内他地区もオーナー制度開始。事務局となり、募集から運営まで関わる。(H16~)

製薬会社の労働支援活動(H18~)

Step5 (H18~)

棚田のライトアップ

- 観光業者、旅館業者、住民、行政とで実行委員会を設立し、竹とバイオディーゼルを用いて、環境と観光の両立を目指したライトアップイベントを開始。高校生が松明設置。
- ロングラン開催に向けてLEDライト導入(H25~)

☆ ニーズの把握がカギ

小学校を中心とする体験宿泊学習と二地域居住のニーズの高まりを捉え、周辺環境調査や体制整備を実施
「新たな公」事業を活用(H20~21)



都市農村共生・対流総合対策交付金を活用(H27)

Step7 (H28~)

農家レストランの営業開始

- 古民家を再生し、酪農発祥地という地域の歴史と食文化を伝えるためのレストラン開始。

研修生の受け入れ、体験プログラム開発(H27~)

農山漁村振興交付金を活用(H27~29)

環境財団の助成を受けビオトープ造成(H24)

説明会やマニュアル作成により農家民宿は軒に拡大。国内外から宿泊学習の受け入れを実施。(H23~)

受け入れキャパを増やしたいが、多くの農家が様子見。

Step6 (H21~)

鴨川農家民泊準備会設立

- 市のふるさと回帰支援センターと二地域居住を推進する中で、宿泊場所のニーズを把握。二地域居住の窓口を増やす目的で4軒の農家で農家民泊準備会を設立。農家民宿の営業許可を取得し、営業開始。○ H22、農家民泊組合に発展。

将来に向けて

- ☑ 農と福祉と教育の連携
- ☑ 担い手の育成
- ☑ 農家民宿の拡充

今後の展望

いま (H29)

- 棚田オーナー制度の拡充(154組)
- 体験学習の受入れの充実(学校の体験学習等5664名)
- 農家レストランの充実(売上げ860万円)



○法人組織化した棚田保存会が中心となり、行政との連携を通じて地域活性化に取り組む。

基本情報

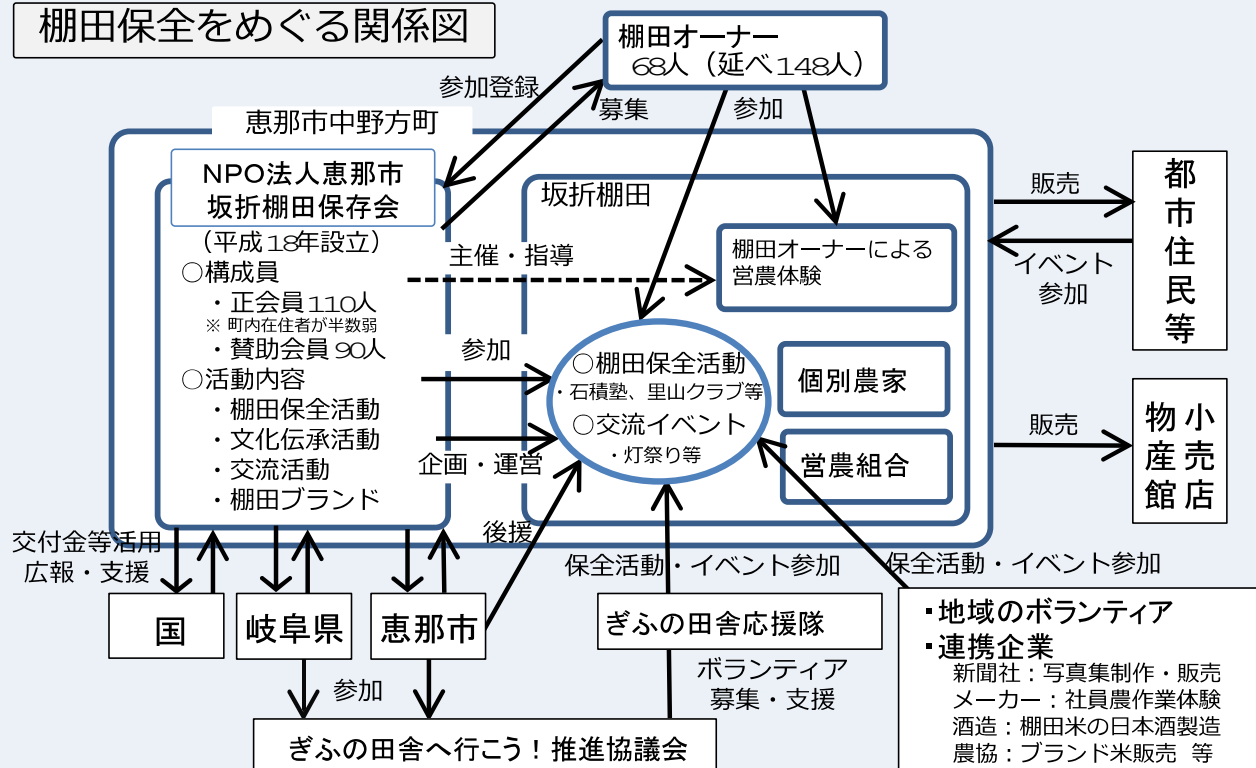
- 所在地：岐阜県恵那市中野方町
(JR中央線 恵那駅から車で30分)
- 枚数：約360枚
- 耕作面積：約10ha
- 耕作率：約73%
- 標高範囲：400～600m
- 平均勾配：1/5 (1/4～1/7)
- 法面の構造：土羽、石積み
- 開発起源：江戸時代(約400年前)
- 水源：湧水、河川
- 保全団体：NPO法人恵那市坂折棚田保存会
- 棚田オーナー制：H18開始後、延べ148人
- 選定：日本の棚田百選(※11)、ぎふの棚田21選(※20)



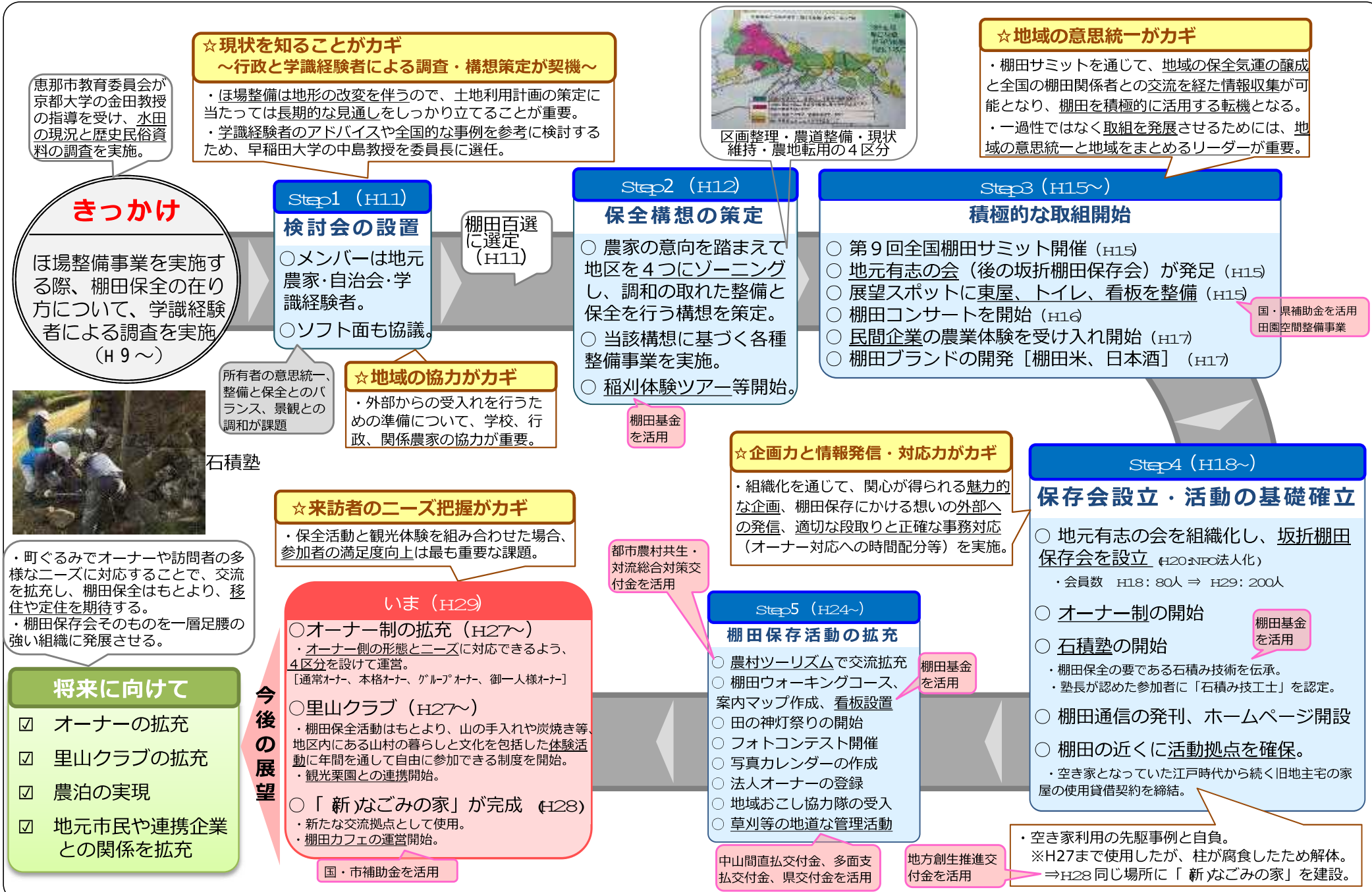
地区の特徴、取組効果

- 今から約400年前の江戸時代から石積み棚田が築かれ始め、明治初期に現在の形状となった。多くが石積の棚田であり、中には城塞の石積構築に活躍した黒鍬と呼ばれる土木技術の職人集団によって積まれた石積みもある。地下水の多い地区であり、鳥居型に石を積み、暗渠として湧水を巧みに利用するなど先人の知恵がうかがわれる。
- 棚田オーナー制
 - ・オーナー側のニーズに合わせられるよう4区分に分けて運営。
(通常オーナー、本格オーナー、グループオーナー、御一人様オーナー)
- 里山クラブ
 - ・棚田保全及び農山村体験等の13活動に年間を通して自由参加可能。
- 石積塾
 - ・棚田保全の要である石積み技術を伝承するために毎年開催。
・塾長が認めた参加者は「石積み技工士」として独自認証。
- 都市農村交流施設「なごみの家」、棚田カフェ「ぺんぺん草」を保存会で運営。地元女性雇用。

棚田保全をめぐる関係図



【事例】現状分析と地域の意思統一を経て、オーナー制度を核とした保全活動を展開





○ 地域住民が復田した棚田をオーナー（都市住民）が保全し、行政がサポート。3者連携で取り組む。

基本情報

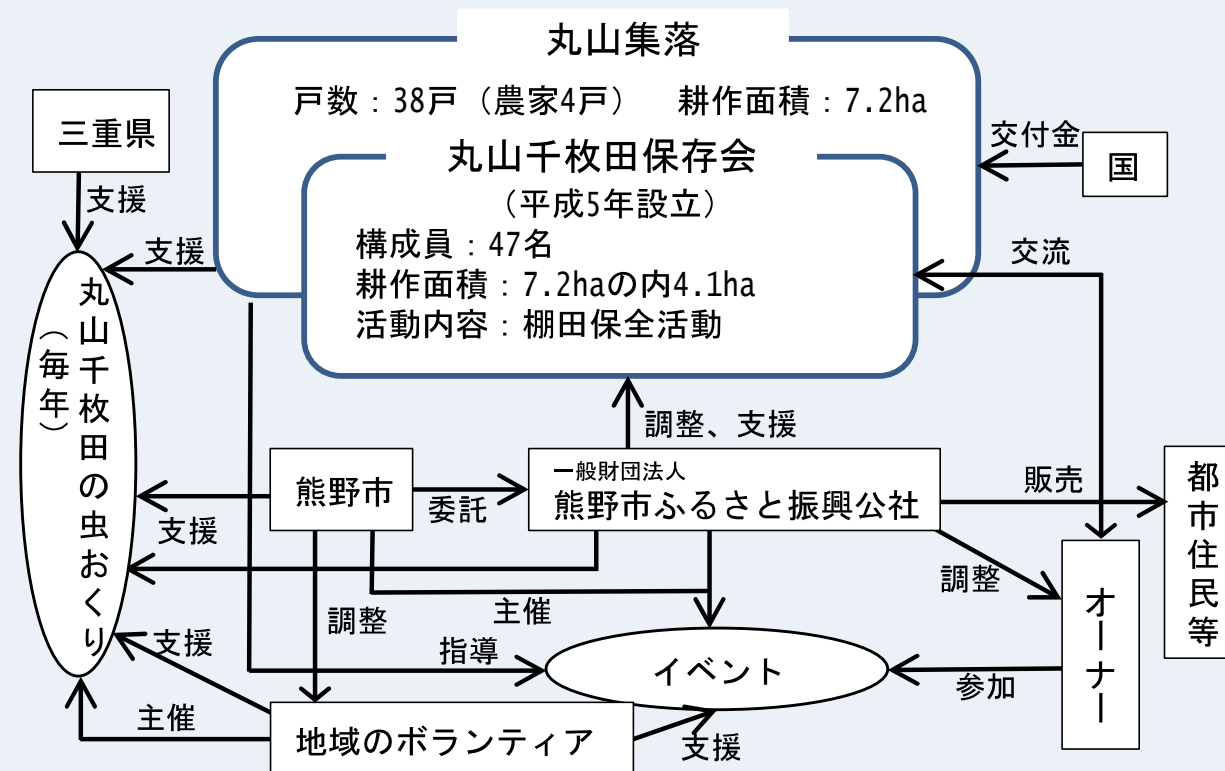
- 所在地：三重県熊野市紀和町丸山
(熊野市駅から車で35分)
- 枚数：約1,340枚
- 耕作面積：約7.2ha
- 耕作率：約57%
- 標高範囲：90～250m
- 平均勾配：1/5
- 法面の構造：土羽、石積み
- 開発起源：不明
(1601年には2,240枚の田が存在)
- 水源：丸山川
- 保全団体：丸山千枚田保存会
- 棚田オーナー制：133組（H8～）
- 選定：日本の棚田百選（H11）、立ち上がる農村（H16）、ユネスコプロジェクト未来遺産（H24）



地区の特徴、取組効果

- 高低差160mと急峻な地形に1,340枚もの小さな田んぼが広がり、一望できる枚数が多いことが特徴。後世に残すためH6には全国初の千枚田条例を制定。
- 地域住民（丸山千枚田保存会等）、行政（ふるさと振興公社等）、外部サポーター（棚田オーナー等）の3者が連携することにより、開かれた地域づくりを実践している。棚田オーナー制度はH8から継続し、県内外から集まる800人前後のオーナーと交流している。
- H16に復活した火と音で害虫を追い払う農耕行事「虫おくり」に毎年1000人前後の観光客が訪れている。

棚田保全をめぐる関係図



【事例】地域住民、行政、都市住民の協働により、皆で残そう！10年、100年千枚田

s30以降の過疎化、高齢化により、荒廃地が増。400年前に2,200枚あった棚田は500枚近くまで減少。

きっかけ

棚田を残したい地域住民の想いと、観光資源に活用したい行政の想いが一致

☆ 住民の熱い想いと地域の結束がカギ

住民の「何とかしたい」との想いが地域リーダーの熱意とリーダーシップに引き寄せられ結束し、行政の積極的支援と相まって活動活発化。



Step1 (H5~)

棚田復元

- 地元丸山地区全戸を会員とする「丸山千枚田保存会」を結成。町から整備委託費を受け、農家が提供した機械を用いて毎日10人が復元作業に従事。
- 町は「紀和町ふるさと公社」（現在の熊野市ふるさと振興公社）を設立し、復元をバックアップ。公社は保存会会員を雇い、耕作に賃金を支払う。
- H5~8の4年間で810枚を復元。



Step2 (H6)

条例制定

- 千枚田を後世に残すため全国初の千枚田条例を制定。関係者の責務、保護区域の指定、財政支援等を規定。

復元した棚田を維持するには人手が必要。



Step3 (H7~)

宿泊施設・展望台を整備

- 休憩所とトイレを新築し、訪れやすい環境を整備。
- 宿泊施設を整備し、遠方のオーナー獲得と長期滞在できる観光集客の増加を図る。
- 山の中腹に展望台を整備し、圧倒的なスケールの眺望で丸山千枚田の魅力をアップ。

☆ 受入環境整備がカギ

来訪者の満足度を上げる取組を検討。

山村振興等農林漁業特別対策事業を活用し「千枚田荘」を新築（H9）

交流センターでの蕎麦打ち体験等実施（H9~）

Step4 (H8~)

棚田オーナー制度の開始

- 都市住民との交流を深め「みんなで守り、みんなで残そう」をモットーに開始。
- 田植えの集い、稲刈りの集いなど農作業体験をできるイベントを通年で開催。
- H8は68組でスタート。オーナーは年々増加しH29は133組・752人が参加。

都市住民に丸山千枚田の魅力を伝えるチャンス

☆ 伝統行事復活がカギ

一般の観光客を増やすことが保全につながる。
熊野古道世界遺産登録記念事業補助金を活用（H16）

・保存会、市、公社、県の職員による勉強会を開始
・保存会会員を地域外に拡大（H20~）

将来に向けて

- ☑ 全国に千枚田ファンを増やしていく
- ☑ 若い世代との交流の場を増やしていく
- ☑ 後継者不足への対応

今後の展望

いま (H29)

- 企業、大学もオーナーに
- 千枚田米6.6トン収穫、どぶろく約500ℓ生産、千枚田荘宿泊者134人（H28）

Step7 (H21~)

どぶろく販売

- 千枚田米のブランド力向上のため「なめらかどぶろく」を販売。
- 伝統製法を引き継ぐ杜氏が公社職員として廃校小学校の給食室を改築し、製造。

Step6 (H16~)

虫おくり復活

- s28に消滅した火と音で害虫を追いつく農耕行事を復活し、棚田に1340本のキャンドルを灯す祭りを開催。
- 毎年1000人前後の観光客が参加。

Step5 (H11)

支援の多角化

- 来訪できない消費者から棚田の維持管理協力金を募る「丸山千枚田を守る会」を発足。会員には棚田米と機関誌を送付。

棚田百選（H11）

近年では、体験学習で保存会から指導を受けた地元中学生が、オーナーに農作業を指導



○オーナー制度を先駆的に活用しオーナーを巻き込んだ景観保全活動やイベントを実施している。

基本情報

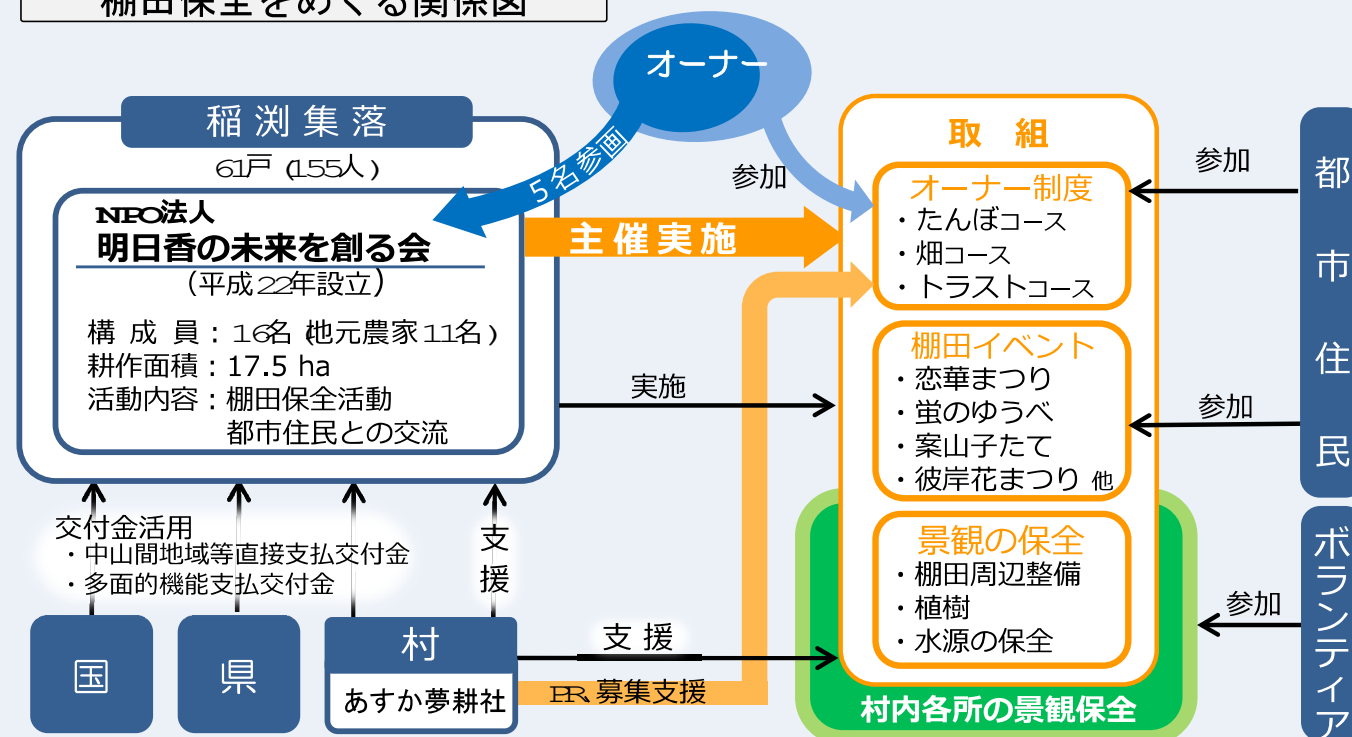
- 所在地：奈良県高市郡明日香村稲渚
(飛鳥駅から車で約12分)
- 枚数：約500枚
- 耕作面積：17.5ha
- 耕作率：67%
- 標高範囲：140～180m
- 平均勾配：1/7
- 法面の構造：土羽、石積み
- 開発起源：約700～900年前
(平安～室町期)
- 水源：飛鳥川
- 保全団体：NPO法人明日香の未来を創る会
- 棚田オーナー制：62組（H8～）
- 選定：美しい日本のむら景観百選（H3）、
日本の棚田百選（H11）、日本の里100選
（H21）、重要文化的景観（H23）



地区の特徴、取組効果

- 飛鳥時代の歴史的・文化的遺産が多く存在する明日香村において、周囲の自然と一体となって当時を偲ばせる稲渚地区の歴史的風土を、住民主導で維持していくとの意識の下、平成8年から棚田オーナー制度を実施。水田以外にも、畑コースやトラストコースに取組を拡大するほか、蓮華まつりや彼岸花まつり、かかしコンテスト等、四季を通じた様々なイベントを開催している。
- オーナー制においては、活動歴の長いオーナーが住民に代わって新規オーナーのインストラクター（指導者）となり、主催組織へ参画しているほか、景観保全においては、水源である飛鳥川周辺や竹林の伐採整備や植樹にボランティアを導入するなど、集落と都市住民とが一体となった活動を繰り広げている。

棚田保全をめぐる関係図



【事例】活動組織をNPO法人化し、集落と都市住民とが共同で棚田を保全

